

児童の学年差によるフォトポエムの 創作過程の意識の相違点に関する一考察

A Study on Difference of Consciousness of Photopoem's Creative Process by Child's Grade Difference

石田 年保*・佐藤 幸江**・中川 一史***
松山市立椿小学校*・金沢星稜大学**・放送大学***

本研究は写真と詩を組み合わせたフォトポエムの創作活動における、児童の学年差による学習活動の意識の相違点を明らかにすることを目的としている。小学校3年～6年生児童417名の意識調査を分析した結果、中学年・高学年共に、詩の満足度と作品の満足度の相関が高いことが認められた。さらに、中学年と高学年の創作活動中の意識に違いあることが明らかとなり、中学年は写真撮影時の思考が、高学年は詩の創作に関する活動が、創作活動全体に与える影響が大きいことが示唆された。

キーワード：フォトポエム 意識調査 相関分析

1. はじめに

フォトポエムは、写真と言葉を組み合わせたマルチモーダル・テキストの一つである。フォトポエムは、「見立て」を中心とした、通常の関係性を転位させる隠喩的手法が特徴的に見られる表現活動である。写真を活用することで、今まで無意識に感じていた発見や感動を顕在化し、そこから言葉を紡ぎ出すことができる。さらに、受け手は写真からイメージを補完し、言葉からより想像を膨らませることができる。また、写真と言葉の非類似性が大きいほど、重層的な意味解釈をすることができる。(石田a, 2018)

石田(2015)は小学校3年生～6年生児童156名の意識調査を行い、全ての創作過程において約95%の児童がよく考えて活動していることを明らかにした。また、石田b(2018)は、2015年に実施した意識調査に記述されている学習の振り返りを計量的テキスト分析し、創作中の思考の場面が学びの要衝であることや、詩の創作中に感じた難しさと詩の出来映えの満足度に強い共起関係があることを示唆した。しかし、これらの分析には児童の発達段階による相違点は考慮されていない。そこで、フォトポエムの学習に関する意識を、発達段階に差があると考えられる、小学校中学年児童と高学年児童の2群に分けて分析し、学年差による学習の意識の相違点を明らかにしようとした。2015年のデータを2群に分けると中学年93名、高学年73名となり、共に100名を下回るデータ数となる。そこで、2014年(平成26年)に実施した

417名(中学年300名・高学年117名)のデータを活用する。フォトポエムの創作実践を行い、400名を超えるデータを得ることは非常に困難であることと、フォトポエムの制作手続きは基本的に同じであることに鑑み、2016年のデータを採用することにした。

2. 研究の目的

本研究は、小学校中学年と高学年の児童の学年差による、フォトポエムの創作過程の意識の相違点を明らかにすることである。

3. 研究方法

3.1. 意識調査方法

3.1.1. 調査対象者

フォトポエムの創作活動を行った松山市公立小学校11校、金沢市公立小学校1校の3年生から6年生までの学級の児童417名を対象とした。(中学年7校13学級計300名・高学年5校5学級計117名)

3.1.2. 調査期間

平成26年11月15日～12月15日

3.1.3. 調査方法

フォトポエムの創作活動終了後、各校のクラスで質問紙による意識調査と自由記述による回答を分析データとして取得する。意識調査は写真撮影、詩の創

作、写真と詩の組み合わせ(デザイン)の3つ活動場面ごとに、思考と満足度に関する質問を行う。また、活動全体に関する質問を加え、合計20項目の質問(表1)を4件法で実施する。意識調査のすべての設問は4件法で回答できるようになっており、強い肯定から順に、4点・3点・2点・1点を付し集計する。

表1	意識調査質問内容
I	写真撮影の場面
1	写真撮影時の思考に関する内容
1.1	何をとりかよく考えた。
1.2	きれいな写真を撮ろうと思った。
1.3	おもしろい写真を撮ろうと思った。
1.4	どのような向きで写真を撮ろうかとよく考えた。
1.5	どのような大きさで写真を撮ろうかとよく考えた。
1.6	写真に撮る物の気持ちを考えて撮った。
1.7	どのような詩がいいか考えながら撮った。
2	写真の満足度: お気に入りの写真を撮ることができた
II	詩の創作場面
3	詩の創作に関する思考
3.1	写真の選択: どのような写真を作品に使うかよく考えた。
3.2	気持ちの想像: 写真に写っているものの気持ちをよく考えた。
3.3	言葉の吟味: 写真に合う言葉をよく考えた。
3.4	表現の工夫: 詩の書き方を工夫した。
4	詩の満足度: 自分の詩はうまくできた。
III	写真と詩の組み合わせ(デザイン)に関する内容
5	デザインの思考
5.1	字の大きさを工夫した。
5.2	字や写真の位置を工夫した。
6	デザインの満足度
6.1	文字の色や大きさはうまくできた。
6.2	文字や写真の配置はよくできた。
IV	活動全体に関する質問
7	作りやすさ: フォトポエムは作りやすかった。
8	活動の楽しさ: フォトポエムを作ることは楽しかった。
9	作品の満足度: 自分の作品はよくできた。

3.2. 分析方法

意識調査を中学年と高学年の2群に分けて、各項目の平均と標準偏差を求め、2群の数値の比較を行う。また、2群ごとに各項目の相関分析を行い、比較を行う。

20項目の相関分析を行うと、表の数値の量が多く内容の特徴が読み取りにくくなる。そこで、「写真撮影時の思考」「デザインの思考」「デザインの満足度」の3つのカテゴリーは、質問項目の数値を合計しカテゴリーの平均で数値を表すこととする。詩の創作に関する思考(3.1から3.4)は各質問の意味の違いが大きいためそのままの項目を採用し、「写真選択」「気持ちの想像」「言葉の吟味」「表現の工夫」という項目でデータを表した。その結果、合計12項目で分析を実施する。なお、欠損データ(中学年23件、高学年4件)を除外し、中学年277件、高学年113件でデータ処理を行う。

4. 結果と考察

4.1. 平均・標準偏差による比較

中学年と高学年の2群の意識調査の平均と標準偏差は以下の通りである(表2)。

どの項目も平均が3以上となっており、写真撮影・詩の創作・デザインの活動場面でよく考えて活動を行っていること、写真・詩・フォトポエムの出来栄に満足していることが読み取れる。結果からは、中学年と高学年の平均値に顕著な違いは見受けられない。また、2群とも創作の楽しさの平均値が最も高く、写真の満足度が次に高い平均値という結果であった。写真撮影時の思考の各項目の平均を見ると、「1.2:きれいな写真を撮ろうと思った。」が2群共に最も高く中学年3.53・高学年3.35であった。デザインの思考・デザインの満足度の各項目の平均値はほぼ同じ値であった。標準偏差では、詩の創作場面に関する写真の選択・気持ちの想像・表現の工夫、また、作りやすさの項目が共に標準偏差0.9を超えており、全体の中でばらつきの多い項目だということが分かる。

表2 中学年と高学年の平均と標準偏差一覧

	中学年		高学年	
	Mean	S D	Mean	S D
1 写真撮影時の思考	3.17	0.59	3.01	0.62
2 写真の満足度	3.60	0.75	3.63	0.76
3.1 写真の選択	3.33	0.97	3.37	0.96
3.2 気持ちの想像	3.20	0.96	3.17	0.97
3.3 言葉の吟味	3.53	0.80	3.52	0.79
3.4 表現の工夫	3.17	0.93	3.11	0.97
4 詩の満足度	3.23	0.87	3.22	0.90
5 デザインの思考	3.38	0.73	3.40	0.59
6 デザインの満足度	3.48	0.66	3.28	0.78
7 作りやすさ	3.23	0.96	3.28	0.91
8 創作の楽しさ	3.76	0.65	3.68	0.76
9 作品の満足度	3.38	0.87	3.37	0.86

4.1. 相関分析による比較

中学年と高学年の2群で、各項目間の相関の分析を行った結果、中学年と高学年児童の各項目間の相関にいくつかの共通点や相違点が見られた。中学年の結果は表3、高学年の結果は表4に示す。

共通点として、以下の2点が挙げられる。(表3・表4に①・②として示す。)番号①の数値は2群の作品の満足度と詩の満足度の相関であり、共に各群で一番強い相関係数となっている。特に、高学年は約0.7と強い相関が認められる。番号②の枠内の数値は、写真撮影時の思考とデザインの工夫・デザインの満足度であり、共に相関が認められる。

相違点として、以下の4点が挙げられる。(表3・表4に③・④・⑤・⑥として示す。)

番号③の枠で囲まれている「Ⅱ詩の創作場面」に関する項目の相関を2群で比較すると、高学年の項目の相関が高いことが分かる。番号④は写真撮影時の思考の列を指し、この列を2群で比較すると、中学年は全ての項目に相関係数0.3以上の弱い相関及び相関が認められる。それに対して高学年は、デザインに関する内容以外は相関係数0.3未満の弱い相関もしくは相関なしとなっている。番号⑤は創作の楽しさの行を指している。中学年は創作の楽しさは、写真撮影時の思考とデザインの工夫に相関があるのに対して、高学年は気持ちの想像と作りやすさに相関がある。さらに、中学年で相関がある写真撮影時の思考とデザインの工夫に関して高学年は相関が認められない。番号⑥は高学年の作品の満足度と表現の工夫の相関を指し、高学年のみ相関が認められる。

これらの結果から、フォトポエムの創作活動における児童の意識は中学年と高学年には違いがあるということが読み取れる。中学年は写真撮影の思考が創作活動全体に影響を与えていることが示唆されている。また、高学年が写真選択・気持ちの想像・言葉の吟味・表現の工夫の相関が高いことから、詩の創作場面で写真と言葉を関連付けながら考えている可能性があることが示唆されている。

5. 結論

小学校中学年と高学年の児童の学年差による、フォトポエムの創作過程の意識の相違点を明らかにするために、児童の意識調査を中学年と高学年の2群に分けて分析・比較を行った。その結果、中学年と高学年の創作活動中の意識に違いがあることが明らかとなった。相関分析から中学年は写真撮影時の思考が、高学年は詩の創作に関する活動が、創作活動全体に与える影響が大きいことが示唆された。

6. 課題と今後の展望

本研究の意識調査の相関分析では中学年と高学年では創作過程の意識に違いが明らかとなり、影響を及ぼす学習場面を推測することができた。そこで、次の段階として意識調査と一緒に取得している自由記述のデータに関して計量的テキスト分析を行う。2群の共起ネットワークを生成し、語の中心性や共起

関係の相違点を読み解くことで、中学年と高学年児童のフォトポエムの創作活動における学びの意識の相違点をより具体的に読み取っていく。これらの意識の相違点を明らかにしていきたい。

7. 参考文献

- 石田年保 (2015) フォトポエムに関するアンケート調査結果について,平成27年度松山市情報教育研究委員会研究紀要,18-32
- 石田年保 (2018) フォトポエム指導経験者による作品評価プロセスについての考察, 放送大学院修士論文, 1-4
- 石田年保 (2018) フォトポエム創作活動における児童の学びに関する一考察, 日本STEM教育学会第1回年次大会 一般研究発表予稿, <https://www.j-stem.jp/wp/wp-content/uploads/2018/10/R05.pdf> (2019.02.20取得)

表3 中学年児童の意識調査の相関分析一覧

中学年	1 ④	2	3.1	3.2	3.3	3.4	4	5	6	7	8
1 写真撮影時の思考	-										
2 写真の満足度	0.376**	-									
3.1 写真の選択	0.524**	0.215**	-				③				
3.2 気持ちの想像	0.521**	0.207**	0.331**	-							
3.3 言葉の吟味	0.448**	0.263**	0.360**	0.367**	-						
3.4 表現の工夫	0.457**	0.224**	0.271**	0.324**	0.394**	-					
4 詩の満足度	0.303**	0.257**	0.226**	0.235**	0.386**	0.419**	-				
5 デザインの工夫	0.583** ②	0.245**	0.348**	0.299**	0.269**	0.389**	0.224**	-			
6 デザインの満足度	0.442**	0.204**	0.286**	0.378**	0.330**	0.340**	0.280**	0.506**	-		
7 作りやすさ	0.386**	0.142*	0.172**	0.307**	0.123*	0.173**	0.223**	0.224**	0.308**	-	
8 創作の楽しさ ⑤	0.453**	0.260**	0.241**	0.316**	0.289**	0.341**	0.220**	0.400**	0.332**	0.316**	-
9 作品の満足度	0.340**	0.282**	0.214**	0.304**	0.327**	0.371**	0.588** ①	0.259**	0.330**	0.338**	0.258**

0.2<r<0.4 弱い相関性ありの数値には文字強調 0.4<r<0.7 相関性ありの数値は文字強調・セルに着色 n.s.:有意差なし, p<.05:*, p<.01:**
赤枠・丸囲み数字は筆者が追加

表4 高学年児童の意識調査の相関分析一覧

高学年	1 ④	2	3.1	3.2	3.3	3.4	4	5	6	7	8
1 写真撮影時の思考	-										
2 写真の満足度	0.092n.s.	-									
3.1 写真の選択	0.275**	0.192**	-				③				
3.2 気持ちの想像	0.201**	0.170**	0.403**	-							
3.3 言葉の吟味	0.091n.s.	0.267**	0.296**	0.361**	-						
3.4 表現の工夫	0.247**	0.164**	0.295**	0.456**	0.510**	-					
4 詩の満足度	0.240**	0.264**	0.255**	0.313**	0.449**	0.576**	-				
5 デザインの工夫	0.511** ②	0.057n.s.	0.149*	0.197**	0.063n.s.	0.211**	0.172**	-			
6 デザインの満足度	0.537**	0.127*	0.277**	0.143*	0.135*	0.232**	0.221**	0.570**	-		
7 作りやすさ	0.104n.s.	0.205**	0.206**	0.299**	0.177**	0.209**	0.259**	0.113n.s.	0.157**	-	
8 創作の楽しさ ⑤	0.118*	0.382**	0.238**	0.412**	0.324**	0.302**	0.234**	0.088n.s.	-0.005n.s.	0.429**	-
9 作品の満足度	0.229**	0.214**	0.331**	0.363**	0.343**	0.469** ⑥	0.699** ①	0.155*	0.229**	0.390**	0.307**

0.2<r<0.4 弱い相関性ありの数値には文字強調 0.4<r<0.7 相関性ありの数値は文字強調・セルに着色 n.s.:有意差なし, p<.05:*, p<.01:**
赤枠・丸囲み数字は筆者が追加